

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 30

学校名・団体名	熊本市立城西小学校
HPアドレス	<a href="http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/jyoseies/">http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/jyoseies/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	子どもたちの笑顔とつながるために (防災への取組)
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>平成28年熊本地震の震災体験を生かして、災害や交通事故、不審者等の身の回りの危険から身を守る子どもの危険回避能力を高めるとともに、子どもたちを守るという教職員の危機管理能力を高め、安全・安心な学校生活の日常化を目指すことをねらいとする。</p>	

## 子どもたちの笑顔とつながるために (防災への取組)

### 1. 実施計画に至るまでの経緯

本校は、平成28年4月14日と16日に、震度7強の前震及び本震に遭った。兵庫県教育委員会の震災・学校支援チーム「EARTH」をはじめ、県内外からの支援を受け、平成28年度を終えることができた。平成29年度は、熊本あげての復興元年の年である。一小学校として何ができるか。まずは、学校の日常化である。そして、今なお余震に危機感を感じながらも、防災に向けての取り組みを日常化するとともに、この経験を他の学校に伝えることではないかと考える。子どもたちの心のケアを考えると、直接体験を語らせることは厳しい。そこで、平成29年度は防災をテーマにし、子どもたちと本校職員の危機回避能力及び危機管理能力を高めるための取り組みをまとめるものである。

### 2. 活動内容

#### (1) 活動の方向

平成29年度の熊本のテーマは、「復興元年」である。本校も、このテーマを掲げるとともに、みんなが笑顔でつながる1年にしたいと考える。未だに余震は続き、子どもの心のケアについては、いつでも対応できる状態にしなければならない。子どもたちに熊本地震に対して直接向き合わせるのではなく、震災体験を生かして、これまでの日常の防災・防犯等の安全・安心につながる取り組みを再構築することが大切である。そして、子どもたちの危険回避能力を高めるために、教職員の危機管理能力を高め、避難訓練を始め、日常の行動を見直していく。子どもたちの安全・安心を高めるためには、一人ではなく、子ども同士、教職員、保護者及びPTA、そして地域住民とともに校区防災連絡会等の団体との連携、すなわち人と人がつながって互いの命を守る体制が必要である。さらに、子どもたち同士が協力して互いを守るために、対話力、思考力、判断力を高めるという「主体的・対話的で深い学び」からの視点による授業改善も重要だと考え、本年度の本校の研究テーマ「自ら考え、表現する子どもの育成」に向けて取り組んでいく。本校の子どもたちは本が大好きである。このことを生かし、情報活用能力の育成のために読書活動の推進を昨年度に引き続き取り組んでいく。

#### (2) 活動の内容

##### ① 震災体験をベースにした危機管理マニュアル及び避難訓練の見直し

###### ○ 地震避難訓練

4月は熊本地震のアニバーサリー反応に対応する必要がある。しかも年度初めであり、学級や学年の体制も未完成の段階である。そこで、年度末の3月と年度初めの4月の2段階に分けた対応をすることにした。3月は、これまでを振り返ること、これからアニバーサリーを迎えるにあたっての心構えを各学級で指導した。4月は新しい学級体制でも落ち着いて行動できるように、自分の命を守るための避難経路の確認を中心に行った。新一年生も含め、落ち着いた避難訓練を実施することができた。保護者には、学校の取り組みを文書で伝えるとともに、カウンセリング申込み等の心のケアについても周知した。

###### ○ 不審者対応避難訓練

地震だけに限らず、昨年度の防災及び安全に関する取り組みについては、課題を基に見直すこととした。子どもたちを守ることを第一目的とし、どの校舎から進入しても安全な対策が取れるように、計画から見直した。警察スクールサポーターに来ていただき、子どもたちへ不審者対応の心構えについて話しをしてもらうとともに、職員の取り組みについて指導していただいた。また、児童の安全・防犯対策として、登下校管理システム「ツイタもん」を導入し、防犯カメラを設置した。

###### ○ 火災避難訓練

これまで、計画の段階で出火場所まで指定の上で実施していた訓練を、どの校舎から出火しても安全に避難できるように、出火場所を事前に知らせず、出火の放送で伝えることにした。それでも、避難にかかる時間は昨年よりも早く、消防署の方からの話にも真剣に向き合う児童の様子が見られた。

###### ○ 水防避難訓練及び交通事故防止のための集団下校

水防避難訓練は、地震・水害等による引渡し訓練を視野に入れながら取り組むこととした。子どもたちを各町内ごとに集合したり、下校したりする体験を積むことで、登下校における上級生が下級生を見守る意識を育てることにつながると考え学期1回実施した。町内ごとに集合する場面では、特に低学年児童の訓練が必要である。人員点呼を含め、スムーズに行動できるように指導した。また、下校ルートについても、これまで担当に任せていたものを、全体を集約しどの町内がどのルートで下校するかを全職員で確認できるようにした。

###### ○ ミサイル対応避難訓練

教育委員会からの要請もあり、ミサイルに対応した避難訓練を実施した。授業中よりも外にいる可能性の高い休み時間に設定した。事前指導を済ませ、屋内にいる場合は窓から離れ机の下に隠れること、屋外にいる場合は、校舎内や物陰に隠れる訓練を行った。



ミサイル対応避難訓練で物陰に隠れる児童

② 子どもの危険回避能力を高めるための子どもと子どもをつなぐ学習への授業転換  
研究テーマ「自ら考え、表現する子どもの育成」～主体的・対話的で深い学びへの挑戦～

新学習指導要領では、子どもたちの生きる力をはぐくむために、これまでの知識重視型から、情報活用型への授業の転換を求めている。単に知識を覚えるのではなく、自ら課題を発見し、それを解決するために、主体的に、対話的な手段をとりながら、課題解決する能力が求められる。これは、子どもたちが危険に遭遇したときの危険回避能力にもつながる力である。本校では、この研究テーマのもと、子どもたちが自ら課題を追求し、学びあう授業に向けて、全職員で取り組んだ。



算数少数人数の研究授業では、主体的に取り組むためには問題の意味を的確に理解するための操作活動が有効であることがわかった。子どもたちは「発表をしてよかった」「みんなと考えることが楽しかった」と思うと「次も頑張ろう」と意欲がわく。算数が苦手な子どもに自己肯定感をもたせる授業となるような手立てを考えていきたい。

実物投影機で提示した資料で発表

○ 日常の授業における対話力、思考力、判断力の育成

- ・ 話し合い活動充実部：なかよしタイム、授業における話し合い活動、学級会活動の充実
- ・ 基礎学力充実部：城西タイム及び学力テストをベースにした学習プリントの充実
- ・ ICT環境部：デジタル教科書、デジタルコンテンツの積極的活用及びICT環境整備

○ 自らの命を守るための城西5つの心

本校には、徳の目標として「城西五つの心」が掲げられている。各学年、各学級でも取り組んでいるが、校長講話においても、五つの心と関連した話により、子どもたちの自己肯定感が高まるよう取り組んでいる。6月の全校集会における校長講話では、人権をテーマとして絵本の読み聞かせを実施している。6月は、おおかみとくまが話し合いで戦争から回避することのできた「にじ」を、11月は、愛知県豊田市が、子どもの権利において子どもの自己肯定感を高めるために自作した「こんたのしっぽ」を読み聞かせした。また、終業式の講話では、通知表の所見の中にある城西5つの心をテーマに、学期を振り返った。2学期は、平成30年につなげるため「感謝の心」をテーマに、2学期の子どもたちにありがとうという校長の気持ちを伝えた。



2学期終業式の校長講話

③ 読書活動を通じた子どもの心のケア及び情報センターとしての図書館の役割活性化

○ 子どもの心のケアを意識した絵本等の図書購入

日本昔話やイソップ童話の本を購入したり、癒しにつながる生き物の買い方の本の購入をしたりすることで、子どもの心のケアを意識した。

○ 読書の時間及び読み聞かせ活動の充実による落ち着いた時間の過ごし方

主に、読み継がれてきた絵本やむかしばなしの本、イソップ童話の本を読み聞かせて読んできた。読み終わった後、内容のポイントに気づいてもらうために、短い時間でも会話をするように心がけた。また、図書委員会の企画として、児童集会においてALTと連携し、英語と日本語での読み聞かせ活動を行ったり、「本バトル」と称して、図書委員が二人一組となっておすすめの本を紹介し、どちらを読みたいと思ったかを尋ねる企画を行ったりした。



ALTと連携した英語と日本語による読み聞かせ

○ 低学年を中心に、本の楽しさを知り、読書につなげる活動

絵本「はじめてのおつかい」を使い、「ダウトを探せ（読み間違いを当てるゲーム）」を行なった。主人公の気持ちがよく表れている言葉を問題にすることで、内容を深く感じてもらうようにした。また、図書館クイズをチーム対抗戦で行った。グループで行うことで、自分の考えを伝えることや他の人の意見も聞き、協力し合って問題を解く楽しさを感じてもらうようにした。

3. 成果及び今後の志向

- 熊本地震の体験をもとに、職員の危機管理能力の向上を目指し、現実に即した避難訓練を実施することができた。子どもの心のケアに取り組むとともに、地域の防災連絡会と連携して取り組んでいきたい。
- 自ら考え表現する児童の育成を目指し、主体的・対話的な学習への授業改善に取り組むことができた。深い学びを意識した単元設計力を高めていきたい。
- 図書館を豊かな感性を高める場、情報活用能力を高める場、外国語活動との連携の場として、見直すことができた。今後、隣のコンピュータ室と連動した情報活用型の深い学びにも取り組んでいきたい。